

平成31年度入学（一般入試 前期日程）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合問題	1	山岸 俊男	安心社会から信頼社会へ	中央公論新社, 1999年より pp.56-60	中央公論新社
	2	筒井 淳也	仕事と家族	中央公論新社, 2015年より pp.78-84	中央公論新社
	3	The Japan Times	Testing Elderly Drivers for Dementia	The Japan Times, Friday January 23, 2015より	The Japan Times
	4 表1 表2	厚生労働省	平成26年（2014）患者調査の概況	厚生労働省, 2015年より	厚生労働省

平成 31 年度 一般入試・前期

## 社会福祉学部

# 総合問題 (120 分)

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、12 ページあります。なお、下書き用紙が 2 枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

信頼は対人関係や社会関係、経済関係の円滑な働きを促進する潤滑油としての役割を果たします。逆に言えば、信頼がなければ世の中の社会関係や経済関係はキョクド<sup>(ア)</sup>に非効率なものとなっ  
てしまいます。この点を説明するために、ここでまず、社会関係や経済関係の潤滑油としての信  
頼の重要性を示すために経済学でよく使われる、ジョージ・アカロフによる「レモン市場」につい  
ての議論を紹介することにします。

ここでいうレモンとは果物のレモンではなく、アメリカのゾクゴ<sup>(イ)</sup>で、隠された故障のある中古  
車のことです。中古車市場では売り手と買い手との間に情報のギャップ(情報の非対称性)が存在  
しています。つまり、売り手には問題のある車だとわかっている、買い手には故障の有無を簡  
単には見分けられません。この情報のギャップは買い手である消費者には不利に働きますが、売  
り手である中古車ディーラーには有利に働くように思えます。しかし実際には、この情報ギャッ  
プは消費者とディーラーの両方にとって困った問題を生み出しているのです。<sup>①</sup>

というのは、この情報ギャップの存在に気づいている買い手は、売り手の言葉をそのまま信じ  
るわけにはいかないからです。売り手は消費者が十分な知識をもっていないのにつけ込んで、レ  
モンを売りつけようとするかもしれません。そこで、レモンを売りつけられる可能性のあること  
を知っている買い手は、その可能性を考慮に入れた上で値段の交渉をします。この、買い手が要  
求する値段は、中古車が実際にレモンであった場合には売り手にとって儲け<sup>(ウ)</sup>が大きい、レモン  
でない場合には儲けが小さい値段となるでしょう。売り手にはその車が故障のない「買い得」な車  
であり、仕入れ値が高いことがわかっている、買い手が売り手の言葉を信用しなければ、その  
車に対してとくに高い価格を払おうという気にならないからです。

買い手がディーラーの言葉をまったく信用しないで、レモンと「買い得」な車を見分けられない  
という前提で値段の交渉をすれば、ディーラーの側としては、オロシネ<sup>(エ)</sup>は高いが問題のない車を  
売っていては儲けがなくなってしまいます。そうすると、見た目には区別できないが本当は問題  
があって、そのために仕入れ値も安いレモンを売りつけようとするようになります。そして  
ディーラーの側がこのような態度を取れば、市場に出回る中古車の多くがレモンである可能性が  
イッソウ<sup>(オ)</sup>大きくなり、そうすると、買い手はレモンをつかまされる可能性をますます重要視し  
て、もっと安い値段でしか買おうとしなくなるでしょう。このような過程が続けば、結局は中古  
車市場にレモンがはびこり、買い手がまともな中古車を買えなくなると同時に、売り手にとっ  
ても正直な商売ができなくなるという、売り手と買い手の双方にとって望ましくない事態が発生  
します。

これは、消費者がディーラーを信頼していれば避けられた問題です。つまり、情報のギャップ  
が市場の非効率性を生み出していますが、その非効率性は信頼が存在すれば避けることができた  
ものです。

このレモン市場問題は、中古車の売買だけではなく、われわれの日常生活をさまざまな場面で

困難なものとしています。まわりの誰も信頼できない社会では、自分の身と財産を守るためにポウダイな時間やエネルギーがかかり、それ以外の生産的な活動に投入できる時間やエネルギーが大幅に制限されてしまいます。また取引相手の誰も信頼できない世界では信用取引がほとんど不可能になり、近代的な効率の良いビジネスは維持できなくなってしまうでしょう。経済学者や政治学者、社会学者といった社会学者による信頼研究の背景には、このような意味での信頼の社会的な機能についての認識が共有されています。

さて、ここでレモン市場の例を取り上げ、信頼は社会関係のための潤滑油としての役割を果たすことを説明しましたが、このことは実は、信頼の存在意義が社会的な不確実性の存在を前提としていることを意味しています。たとえばレモン市場において、<sup>②</sup>買い手が売り手の意図を見通すことができれば、そもそも相手を信頼すべきかどうかという問題自体が存在しません。相手の嘘をたちどころに見破ることのできる超小型の超高性能嘘発見機が世の中に普及していれば、相手が信頼できる人間かどうかを考える必要はありません。相手がいくら信頼できない人間であっても、嘘をつけなくなってしまうからです。そうなれば、レモン市場問題が生まれることもないはずで

す。相手の意図についての情報が必要とされながらその情報が不足している状態を、社会的な不確実性が存在している状態と呼ぶことにします。相手が信頼できるかどうか、相手を信頼するかどうかは重要になるのは、この意味での社会的な不確実性が存在している状況においてです。相手にとってだます誘因が存在していない状態や、相手の行動が完全に予測可能な状態では、相手を信頼すべきかどうかという問題は生まれません。

この点を理解すること、つまり、他人にだまされてひどい目にあう可能性がまったくない状況では他人を信頼する必要がないことを十分に理解しておくことは、信頼について考える場合に最も重要な出発点だと言えるでしょう。

この点の理解が重要なのは、安心と信頼との区別に直接結びついているからです。人々はしばしば、社会的な不確実性がまったく存在しない状態を信頼が成立している状態と呼びます。たとえばコンピュータを購入しようと思っている人が、名前の通っているメーカーの製品なら信頼できるけれど、今まで一度も名前を聞いたことのないようなメーカーの製品は信頼できないと思うとしたら、その人は実際には信頼ではなく安心について考えているわけです。というのは、名前の通っているメーカーは粗悪品を販売すれば評判が低下し、メーカー自身が損害をこうむってしまうからです。名前の通ったメーカーの製品なら安心して購入することができるのはそのためであって、有名メーカーの経営者が正直な心の持ち主だと思っているからではありません。

このことは、評判を重視する有名メーカーの製品の購入にあたっては、社会的な不確実性が小さいことを意味しています。そしてそのような社会的な不確実性が小さな状態は、ではなくが成立している状態なのです。

さてこれで、が必要となるのは実は、社会的な不確実性の大きな状態に直面した場合だということが明らかになりました。

(山岸俊男『安心社会から信頼社会へ』, pp.56-60, 中央公論新社, 1999年より, 一部改変)

問 1 下線部(ア)～(オ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 下線部①「しかし実際には、この情報ギャップは消費者とディーラーの両方にとって困った問題を生み出している」とはどういうことか。本文の内容に即して、150字以上170字以内で述べなさい。

問 3 「レモン」と同じ意味で使われている言葉を本文中から3字で抜き出して答えなさい。

問 4 下線部②「信頼の存在意義が社会的不確実性の存在を前提としている」とはどういうことか。本文の内容に即して、120字以上140字以内で述べなさい。その際、「社会的不確実性」という言葉を用いること。

問 5  と  に入るもっとも適切な語句を、次の選択肢から2つ選んで記入しなさい。

,  ,  ,

2 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

日本における女性の就労は、いわゆる「男性的な働き方」によって阻害されてきた。現状の日本的な働き方を続けていては、女性の労働力参加が他の先進国並みの水準に達することはない。

(中 略)

特定の国のグループで女性の労働力参加が活発で、別のグループではそうではないという場合、それは時代を通じてあまり変化しない社会の特性、つまり固定要因の影響である可能性がある。しばしば指摘されるのは宗教だ。一般にイスラム諸国は他の宗教圏の国々より女性の労働力参加率が著しく低いし、同じキリスト教圏でもイタリアなどのカソリック地域では、アメリカ、スウェーデンなどのプロテスタント地域よりも女性の労働力参加が活発ではない。ドイツにおいても、キリスト教民主主義が政治において一定の勢力を持っていたことが、女性の労働力参加においてネガティブに影響したという見方がある。

とはいえ、女性の労働力参加については固定要因(各国の差を説明する要因)よりも変動要因(各国内における変化をもたらす要因)に関する研究のほうが圧倒的に多い。20世紀後半の先進国が経験した最も革命的な変化のリストに、女性の労働力参加を加える識者もいるほどだ。

それでは、先進国における女性の労働力参加の変動についてはどのような説明がなされているのだろうか。

女性の労働力参加にかぎらず、「社会(国)のすがた」の変化を理解して記述するときには、「社会構造」と「社会制度」という概念を区別しておくことが重要だ。「構造と制度」というと難しく聞こえるが、これは社会学などの学術用語ではなく、私たちが日々新聞などで触れる言葉である。「社会構造」とは、たとえば人口構造や産業構造である。他方、「社会制度」とは、たとえば雇用制度や家族支援制度である。「人口構造」という言葉はよく目にするだろう。たとえば高齢者の比率が高いことは、日本の人口構造の特徴の一つである。しかし私たちは、「人口制度」という言い方はしないはずだ。なぜだろうか。

制度とは、たいていの場合、人々が法律などを通じて公式に、あるいは慣習などの非公式な取り決めを通じて共有される規則を指す。しかし、日本には人口を直接操作するような「制度」は存在しない。子どもを全くもうけなくても、10人つくろうとも、その選択によってその人の人生は大きな影響を受けるだろうが、法律による罰則はない(「人口制度」という言葉をウェブ検索すると中国のページがたくさん出てくるが、中国には「一人っ子政策」のように人口を直接的に抑制する制度が存在するからかもしれない)。もちろん政府・国の方針として出生率を上げるという目標を掲げることはありうるが、その場合でも個人の自由を確保したうえで、児童手当などのインセンティブを与えるかたちをとる。なお、政府が制度を創設する際の方針は、「政策」と呼ばれる。

一方の構造とは、制度、あるいはその策定方針である政策によって介入される「状態」を指す。経済構造要因(たとえばグローバル化)によって失業が深刻になれば、雇用制度を改革する政策に

よって、雇用状況を改善することが目指される。人口構造が過度に高齢化すれば、家族支援制度によってそれに対応しようとする。

ある社会変化は、まさにその変化を引き起こすべくつくられた制度によって、意図どおりにもたらされることもあるだろう。日本の介護保険制度は、人口高齢化や核家族化といった日本社会の構造変化に対応すべく、家族の介護負担を減らすためにつくられた。そして、いくつかの問題を含みながらも、当初の目的をおおむね達成したという評価が多い。

これに対して、制度が意図せざる結果をもたらすこともある。たとえば(これは多分に非公式な制度だが)<sup>③</sup>アジアの家父長制的・性差別的な慣習が、めざましい経済発展の重要な契機だった、と指摘する研究もある。そうした慣習ゆえに、軽工業に安価な女性労働力を投入でき、企業が余力をもって技術開発に投資できたことが、台湾などアジア諸国の企業の輸出競争力を高めた、というのである。

他方で社会変化は「構造主導」で引き起こされることもある。たとえば高学歴化(多くの人々が義務教育を終えたあとも高等教育まで教育期間を継続するようになること)は一般に、経済が農業から工業、そしてサービス業に移行し、高い技能を備えた労働力が必要とされるようになるという構造変動に対応して生じる変化である(東アジア諸国のように政府の方針で進められることもある)。

ここで留意すべき点は、制度・政策が社会を変えようとする意図でつくられることが多いのに対して、構造は気づいたらそうなっていたというような、自然発生的な状態である、ということだ。日本人や日本政府は、明確な意図をもって日本の人口構造を高齢化させようとしたわけではない。そんな人はたぶん一人もいないだろう。その時々によかれと考えて行動してきた結果、気がつけば高齢化が世界一進んでいたのである。また、近代化以前の社会では、格差はまさに制度(身分制度)であったが、現在では格差(資源の不均等配分構造)は基本的に意図せざる結果である。公費援助が少ない日本の教育制度など、格差維持につながる様々な制度はあるにせよ、それらは直接的に身分を固定させるようなものではない。

(中 略)

以上の社会変化についての枠組みを女性の労働力参加にあてはめるとどうなるだろうか。

一般的に、女性の労働力参加は制度主導で進められてきた社会変化の典型と考えられがちだ。戦後、ほとんどの先進国で女性の多くが専業主婦となるが、その状態を「女性抑圧」だと感じた人々が「男女平等」の理念のもと、女性も男性と同じように働ける環境を整備することを要求しはじめた。それに対応して雇用差別や賃金差別が法制度によって禁じられてきた結果、今や欧米諸国の一部では女性が男性と肩を並べて仕事をするようになった——こういう見方がしばしばなされる。

しかし、こうした考え方は、実際にはせいぜい一部しか正しくない。つまり、女性の労働力参加は、それを目的につくられた様々な制度(雇用機会均等法や両立支援制度など)<sup>④</sup>があってもたらされたわけではなく、むしろ構造的要因によって引き起こされてきた、というのが専門家の共通

理解なのである。

女性の労働力参加を説明する理論のなかでも、専門家に最も広く受け入れられているのが「U字型仮説」である。この仮説は、国が経済的に発展するにつれて女性の労働力参加はいったん下がり、その後再び回復する、という長期変動を予測するものだ。これは日本でも見られた動きで、農業や自営業が国の経済の中心であった時期には、女性は(子育てや家事と仕事を両立しやすいため)活発に労働力参加していたが、第二次産業、特に重化学工業、鉱業、建設業が経済の中心になると主婦化し、その後サービス産業化にともなって市場労働に参画していく、という見方である。

アメリカ、スウェーデン、フランスなど早い段階で工業化を経験した国では、比較的信頼できるデータがそろうようになる20世紀半ばよりも前にU字型の底がきている。これに対して日本のほかフィンランド、イタリアでは1970年前後になって女性の労働力参加が底を打ち、そこから再び上昇している。これらの国では、古い経済セクター(農業、自営業)と新しい経済セクターが逆転するタイミングが他の欧米諸国に比べて遅かったのである。

いずれにしろ、先進国はいずれ工業化に続くポスト工業化の段階に突入して、工場や建築などのマニュアル労働に比べてオフィスワークや対人サービス職の比率が高まり、女性が市場労働において活躍するようになる。これがおおまかなU字型の説明である。そしてこの理論枠組みでは、制度の要素は登場しない。「男女平等を実現すべく制定された制度のおかげで、女性が賃労働に参加するようになったのだ」というよりは、産業構造の変化が女性をいったんは非労働力化し、その後再び労働力化したのだ、という説明なのである。

(筒井淳也『仕事と家族』pp.78-84, 中央公論新社, 2015年より, 一部改変)

問1 作者は、下線部①「固定要因」が、女性の労働力参加に与える影響についてどのように述べているか。本文の内容に即して、80字以上100字以内で説明しなさい。

問2 下線部②「インセンティブ」と同じ内容を指す言葉をア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 原因
- イ 要因
- ウ 誘因
- エ 素因

問3 下線部③「制度が意図せざる結果をもたらす」とはどういうことか。本文の内容に即して、130字以上150字以内で説明しなさい。



問 4 作者が、下線部④「せいぜい一部しか正しくない」と述べる理由について、「U字型仮説」の内容を踏まえて、150字以上180字以内で説明しなさい。

問 5 現在の日本において、二重下線部「変化を引き起こすべくつくられた制度」にはどのようなものがあるか。具体的な制度(介護保険制度を除く)を挙げ、その内容を180字以上200字以内で説明しなさい。その際、「構造」「制度」「政策」の用語をすべて用いること。

3 次の英文を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 110 点)

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

(*The Japan Times*, "Testing Elderly Drivers for Dementia", Friday, January 23, 2015 より、一部改変)

注 senile dementia 老年認知症      certificate 証明書      impairment 障害  
on the wane 減少傾向の      weave 蛇行する

問 1 文中の空欄( ア )に入る適切な語を, 次の(A)から(C)の中から選び, 記号で書きなさい。

(A) see

(B) seeing

(C) seen

問 2 次の語を並べ替えて, 文中の空欄( イ )に入る, 最も適切な英語の表現を作りなさい。

cognitive function tests / compulsory / elderly drivers / for / get / it / make / to

問 3 下線部①を日本語に訳しなさい。

問 4 2003年に75歳以上の運転者が引き起こした重大事故の件数を, 本文の記述に基づいて算出して書きなさい。ただし, 小数点以下を切り捨てて, 整数で記すこと。

問 5 下線部②の bracket と同じ意味で用いられている語を, 本文中から抜き出し, 英語で書きなさい。

問 6 下線部③の They が指示する名詞句を本文中から抜き出し, 英語で書きなさい。

- 4 以下の表1および2は厚生労働省が平成27年度に公表した「平成26年(2014)患者調査の概況」の資料をもとに作成したものである。これらの表を読み取り、あとの問いに答えなさい。

(配点110点)

表1 性・年齢階級別にみた受療率(人口10万対)

年齢階級	入 院			外 来		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	1,038	977	1,095	5,696	5,066	6,292
0 歳	1,062	1,119	1,001	6,691	6,811	6,564
1～4	170	187	152	6,778	6,914	6,638
5～9	92	101	83	4,422	4,562	4,275
10～14	92	102	82	2,649	2,711	2,584
15～19	117	123	111	1,937	1,750	2,134
20～24	165	147	184	2,240	1,743	2,765
25～29	241	178	306	2,716	1,908	3,561
30～34	296	216	379	3,086	2,156	4,043
35～39	304	266	342	3,280	2,463	4,118
40～44	330	351	308	3,382	2,850	3,927
45～49	427	480	374	3,827	3,333	4,327
50～54	591	688	493	4,664	4,087	5,244
55～59	772	921	626	5,361	4,878	5,838
60～64	1,064	1,282	855	6,514	6,164	6,853
65～69	1,350	1,618	1,102	8,309	7,821	8,761
70～74	1,820	2,110	1,568	10,778	10,266	11,224
75～79	2,635	2,913	2,416	12,397	12,110	12,624
80～84	3,879	4,063	3,757	12,606	12,857	12,439
85～89	5,578	5,603	5,569	11,373	11,871	11,126
90歳以上	8,412	7,803	8,587	9,074	9,911	8,834

(厚生労働省「平成26年(2014)患者調査の概況」2015年より、一部改変)

表 2 傷病分類別にみた受療率(人口 10 万対)

傷病分類	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1,038	977	1,095	5,696	5,066	6,292
① 感染症及び寄生虫症(結核, ウィルス肝炎等)	16	17	16	136	127	146
② 新生物(ガン等)	114	132	97	182	172	192
③ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	6	17	9	25
④ 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病等)	26	23	29	344	300	385
⑤ 精神及び行動の障害(認知症, 統合失調症等)	209	210	208	203	195	211
⑥ 神経系の疾患(アルツハイマー病等)	96	81	110	136	114	157
⑦ 眼及び付属器の疾患	9	8	10	266	207	322
⑧ 耳及び乳様突起の疾患	2	2	2	79	72	86
⑨ 循環器系の疾患(心疾患, 脳血管疾患等)	189	174	203	734	676	789
⑩ 呼吸器系の疾患(肺炎, ぜん息等)	71	79	64	526	506	545
⑪ 消化器系の疾患(歯肉炎, 歯周疾患, 肝疾患等)	52	56	48	1,031	934	1,123
⑫ 皮膚及び皮下組織の疾患	9	8	9	226	208	243
⑬ 筋骨格系及び結合組織の疾患	55	40	69	691	533	840
⑭ 腎尿路生殖器系の疾患	37	37	37	223	217	228
⑮ 妊娠, 分娩及び産じょく	15	—	28	11	—	22
⑯ 周産期に発生した病態	5	6	5	2	2	2
⑰ 先天奇形, 変形及び染色体異常	5	5	4	11	11	12
⑱ 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13	10	15	61	51	70
⑲ 損傷, 中毒及びその他の外因の影響(骨折等)	103	80	125	241	249	234
⑳ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	4	11	576	485	662

(厚生労働省「平成 26 年(2014)患者調査の概況」2015 年より, 一部改変)

問 1 性・年齢階級別にみた受療率の傾向を述べた下記の文章の空欄にもっとも適切な言葉や数字を記入しなさい。なお、年齢を記す場合は、年齢階級を用いること。

入院の受療率において、年齢別でみると0歳が男女ともに高く、その後低下するが、入院総数は  歳から増加傾向になり、その傾向は  まで続く(ただし35~49歳の女性を除く)。それに対し、外来の受療率は、同じく年齢別でみると  歳まで総数よりも高い割合を示すが、その後、 歳において最も低い外来患者総数の数値を示す。それから再び、外来総数は増加傾向に転じ、外来男性患者の受療率は  歳まで増加するのに対し、外来女性患者のそれは、75~79歳が最も高い数値を示している。その後、外来患者の受療率は、男女ともに低下する。つまり、入院患者の受療率は、 児及び  者が多く、概ね小中学生の年代が少ない傾向にあるのに対し、外来患者の受療率は、乳幼児及び  者が多く、概ね高校生の年代が最も低い割合を示している。

問 2 平成26年の受療率(人口10万対)において、外来の女性(総数)に対する男性(総数)の割合(%)を答えなさい。なお、必要があれば小数第2位を四捨五入して小数第1位まで記すこと。

問 3 平成26年の総人口を仮に127,083,000人とした場合、入院患者総数は何人か答えなさい。なお、必要があれば小数第1位を四捨五入して整数で記すこと。

問 4 平成26年の総人口を仮に127,083,000人とした場合、実際の外来患者数に対する入院患者数の割合(%)を答えなさい。なお、必要があれば小数第2位を四捨五入して小数第1位まで記すこと。

問 5 傷病分類別にみた受療率の傾向を述べた下記の文章の空欄にもっとも適切な傷病分類の番号①~⑳を選び、記入しなさい。

入院と外来の総数における受療率(人口10万対)の差が2番目に小さい傷病分類は  で、両者の差が最も大きい傷病分類は  で、その差の比率が最も大きい傷病分類は  である。また、入院による男女間の受療率の差は、 において女性に比して男性の受療率が最も高いのに対し、 において男性の受療率に比して女性の受療率が顕著に高い。他方、外来においては、 の男女間の受療率は等しいものの、 や  は女性の受療率が男性に比して極めて高い数値を示している。